

令和6年度 ー関西大学ラグビーリーグ戦戦績ー  
 健闘、Bリーグ 12チーム中6位  
 三商大戦 2010年以来の全勝優勝

令和6年度(2024年度)1次リーグ&2次トーナメント試合結果

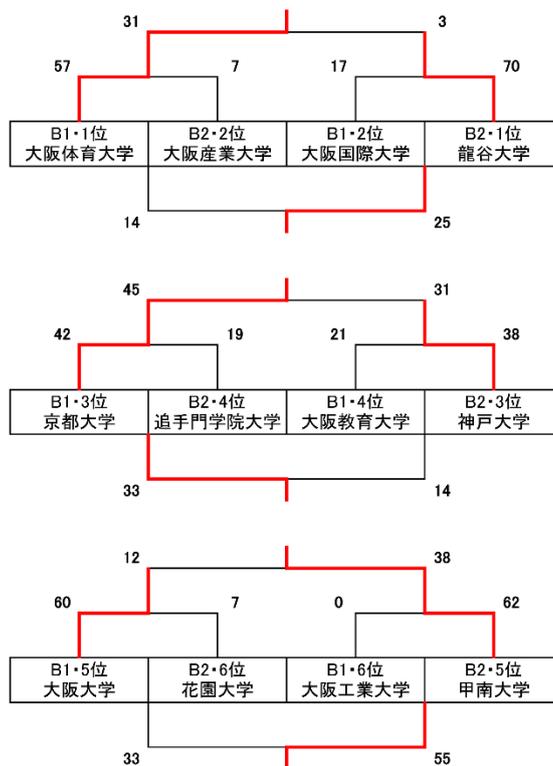
まず、12チームを6チームずつB1とB2の2グループに分けて1次リーグ戦を行い、次に、1次リーグの各グループでの上中下同士4チームで行う2次トーナメント戦が実施されました。神戸大学は、1次リーグのB2グループでは2勝3敗、勝ち点10の3位となり、2次トーナメント(順位決定戦)では中位グループ(5位~8位)に回り、初戦は大阪教育大学に勝利、5位・6位決定戦は京都大学に敗れました。最終的には、Bリーグ12チーム中6位と、久々に上位半分に入りました。1次リーグ初戦の甲南大学戦、豪雨にも関わらず多数のOBの皆様の応援で勝利したことが好成績に繋がりました。2次トーナメント戦での京都大学戦は、前半終了時は24点差ありましたが後半開始から3連続トライの猛反撃で5点差まで迫りました。応援に熱が入る試合でした。また、三商大戦は2010年以来の全勝優勝です。選手・マネージャーの頑張りはもちろんこと、昨年多くのOB・OGから頂戴した100周年記念寄付金を使ったロッカールーム設置、トレーニング機器購入など練習環境の改善等も後押ししたと思います。OB・OGの皆さん、グラウンドに足を運び、現役への応援ありがとうございました。今後とも宜しくお願いします。

■関西大学Bリーグ最終順位

- 1位：大阪体育大学 2位：龍谷大学 3位：大阪国際大学 4位：大阪産業大学  
 5位：京都大学 6位：神戸大学 7位：追手門学院大学 8位：大阪教育大学  
 9位：甲南大学 10位：大阪大学 11位：大阪工業大学 12位：花園大学

B1リーグ	大 体 大	大 国 大	京 都 大	大 工 大	大 阪 大	大 教 大	勝	負	分	得失点	勝点	順位
大阪体育大学	○	○	不戦勝	○	○		5	0	0	325	25	1
大阪国際大学	●	△	○	○	○		3	1	1	35	17	2
京都大学	●	△	○	○	○		3	1	1	93	16	3
大阪工業大学	棄権	●	●	○	●	●	0	5	0	-201	-4	6
大阪大学	●	●	●	○	●	●	1	4	0	-211	5	5
大阪教育大学	●	●	●	○	○		2	3	0	-41	11	4

B2リーグ	龍 谷 大	甲 南 大	追 手 門 大	大 産 大	花 園 大	神 戸 大	勝	負	分	得失点	勝点	順位
龍谷大学	○	不戦勝	○	○	○		5	0	0	271	25	1
甲南大学	●	●	●	○	●		1	4	0	-30	8	5
追手門学院大学	棄権	○	○	○	○		3	2	0	-9	9	4
大阪産業大学	●	○	○	○	○		4	1	0	46	19	2
花園大学	●	●	●	●	○	●	0	5	0	-228	0	6
神戸大学	●	○	●	●	○		2	3	0	-50	10	3



AB入替戦						
月日		K.O.	対戦力一対		会場	
12月	14日(土)	11:45	関西大学 A8位	19-18 (0-15)	大阪体育大学 B1位	天理親里
		14:00	摂南大学 A7位	57-17 (38-10)	龍谷大学 B2位	

BC入替戦						
月日		K.O.	対戦力一対		会場	
12月	15日(日)	12:00	甲南大学 B9位	48-0 (26-0)	大阪公立大学 C4位	大阪公立大学
		14:00	大阪大学 B10位	41-19 (26-0)	大阪学院大学 C3位	大阪公立大学
		11:45	大阪工業大学 B11位	17-55 (5-31)	大阪経済大学 C2位	大阪経済大学
		14:00	花園大学 B12位	14-59 (7-35)	関西外国語大学 C1位	大阪経済大学

(各戦評は現役チームより)

## 【1次リーグ戦】

9月22日(日) 甲南大学戦 13:00K0@甲南大学グラウンド

前半 14-0

後半 0-7

合計 14-7(○)

リーグ戦初戦であるこの試合に全ての照準を合わせて合宿等で調整してきた。5月での敗戦を活かし、キックでゲームを組み立てて、ディフェンスの接点での粘り強さによって試合展開を優位に進めることができた。前半途中で雷雨による中断があったものの、集中力を切らさず、失点を最小限に抑えることができた。スクラムで優位に立てていたことも勝利の大きな要因だと考える。



9月29日(日) 大阪産業大学戦 14:00K0@追手門学院大学グラウンド

前半 15-29

後半 14-36

合計 29-65(●)

前半に3人の負傷交代が出るなどのハプニングがあり、対応力が問われる試合となった。テンポの良いアタックは通用していたもののディフェンスで簡単に抜かれてしまう場面が多く、選手層がまだまだ浅いことを痛感した。このようなハプニングがあった際にも安定したゲームができるように、控え選手の強化が必要である。

10月13日(日) 龍谷大学戦 13:00K0@京都大学グラウンド

前半 7-29

後半 0-43

合計 7-72(●)

セットプレーの精度、キック・パス・ブレイクダウンの質、その他どれをとっても神戸大学の方が劣っていた。Bリーグ優勝レベルには自分たちはまだほど遠いということを感じさせられた。

10月20日(日) 追手門学院大学戦 14:00K0@追手門学院大学グラウンド

前半 12- 7  
 後半 21-27  
 合計 33-34(●)

FW のスクラムに課題が残る試合となった。今年度は体重増加を目標にし、他チームには一定の成果が見られたが、追手門学院大学戦ではFW8人の合計体重に68kgの差があり、フィジカルで圧倒されてしまった。それでもBKのサインプレーが刺さり、トライを重ねることができたが、最後に逆転トライを奪われ、敗北を喫してしまった。

11月3日(日) 花園大学戦 11:00K0@甲南大学グラウンド

前半 12-12  
 後半 50- 5  
 合計 62-17(○)

勝てばリーグ中位という大事な試合であった。花園大学の他大学との試合から、前半に粘れば後半は相手の外国人選手の体力切れで試合を優位に進められると分かっていたので、前半はとにかく相手外国人選手を自由に走らせないディフェンスを心掛けた。案の上、後半からは相手ディフェンスの隙が増え、大量得点によって勝利をおさめることができた。



**【2次トーナメント戦】**

11月24日(日) 大阪教育大学戦 13:00K0@京都大学グラウンド

前半 12- 7  
 後半 26-14  
 合計 38-21(○)

前半は相手の粘り強いディフェンスに対してトライをとりきれない状態が続いたが、後半の入りがよく、立て続けに3本のトライをとることができた。後半最後に大幅に選手交代を行ったが、その途端に2トライをとられてしまったので、やはり控え選手とスタートで出場している選手にはまだ差があるなど感じた。



12月1日(日) 京都大学戦 11:00KO@京都大学グラウンド

前半 7-31

後半 24-14

合計 31-45(●)

前半は日差しが強くキック処理が安定しなかったことに加えて、S0の負傷により14人で戦う時間帯が少しあり、そこでトライを重ねられてしまった。しかし、後半は今まで課題であった継続してトライをとりきるということができ、あと一歩のところまで追いつめたものの勝ちきれなかった。アタックに関してはこの試合の後半が今シーズンでベストであった。



## 三商大戦

6月16日(日) 大阪公立大学戦 10:30K0@大阪公立大学グラウンド

前半 26-14

後半 7-17

合計 33-31(O)

前半は優位にゲームを進められたものの、後半になってディフェンスの甘さが出てしまった。具体的には内側からディフェンスラインを上げられていないのとともに、ゲインされた時の戻りが遅くギャップをつかれてトライを奪われてしまった。しかし、後半最後に相手が勝つ流れの中で継続してトライをとって勝ち切れたことは大きな成長だと感じた。

12月21日(日) 一橋大学戦 11:00K0@大阪公立大学グラウンド

前半 14-14

後半 26-22

合計 40-36(O)

前半は、ディフェンスで前に上がられていないのと、集中力が少し欠けていた部分があり、簡単にトライをとられてしまう局面があった。また、相手SOのロングキックに苦戦し、十分にエリアをとることができなかった。後半に入ってから一進一退の攻防が続いたが、6月の大阪公立大学戦同様、終盤に高い集中力で逆転することができ、シーソーゲームをものにすることができた。





8月16日(月) 大阪公立大学 36-32 一橋大学 @菅平

■順位：1位：神戸大学 2位：大阪公立大学 3位：一橋大学  
2010年以來の単独優勝(2011年と2022年は3校同率優勝)。

## 甲南大学定期戦

5月25日(日) 甲南大学戦 10:30K0@甲南大学グラウンド

前半 7-7

後半 7-38

合計 14-45(●)

前半は風上であったため、ここでもっと多く得点をとるべきであったが、前半最後にミスが続いてしまった。後半は風下かつ相手SHの交代によるテンポの良いアタックに翻弄され、差が開いてしまった。しかし、昨年1点も入れられなかった同定期戦に比べると得点が取れていたことから、フィジカル面で通用している部分もあると感じた。

## 今シーズンを振り返って 主将：南 俊輔

### 1. 御礼

まずは、今シーズンを通して様々なご支援・ご声援を下さったOB・OGの皆様、保護者の皆様、並びに全ての関係者の方々に心より感謝申し上げます。昨年度は主務として創部百周年記念式

典にも関わらせていただきましたが、今年度は主将として本当に多くの方々の支えによって神戸大学ラグビー部が成り立っているということを改めて実感しました。1年間有難うございました。

## 2. 今シーズンの成績

今年度のリーグ戦での成績は、3勝4敗で6位(1次リーグ3位)という結果でした。ここ数年間は下位リーグで停滞していた順位を中位リーグまで押し上げることができたことに一定の満足感はあるものの、やはり今シーズン当初の目標としていたリーグ優勝には程遠い結果となったことを悔しく思います。

また、三商大戦では14年ぶりとなる全勝優勝を果たすことができました。毎年一橋大学戦はBCリーグ入れ替え戦の次の週ということもあり準備が難しかったのですが、今年度は入れ替え戦を回避したため、しっかりと一橋大学戦に対して準備ができ、勝利をおさめられたことを嬉しく思います。

## 3. 今シーズンの総括

今年度のスローガンは「Overwhelm」(日本語で「圧倒する」)であり、ここ数年間下位リーグで停滞しているチームを圧倒的に強いチームにしようと、「リーグ優勝」を掲げて始まったシーズンでした。そのために週5回の筋トレ管理、食事管理、フィットネスメニューの増加、2部練習の導入など、他にもかなり厳しいことを部員に求めました。夏前まではなかなか成果が上がらなかったものの、合宿辺りから徐々に成果が出始め、リーグ戦では6位、三商大戦では14年ぶりの全勝優勝を果たすことができました。今シーズンにこのような成績をおさめられた理由は2つあると考えております。1つ目はチーム運営がうまくいったことです。私以外の4回生も積極的にチーム運営に携わってくれたおかげで、今シーズンから始めた様々な新しいことをまずは4回生がお手本となって後輩に見せ、そして後輩がそれを信じてついてきてくれたことがこの結果に繋がったと考えております。2つ目は部としての環境が整ってきたことです。今年度から本格的に部室や筋トレ設備を利用することができ、そのおかげですぐにミーティングを行うことができたり、ジムに通う時間がない部員が大学で筋トレができたりするようになりました。これはひとえにOBの皆様のご支援のおかげです。改めて有難うございます。ここ数年間の中では良い結果を残すことができたシーズンでしたが、今シーズンの目標であったリーグ優勝にはとどきませんでした。その夢は後輩たちに託したいと思います。

## 4. 後輩へ

最後のミーティングで言ったことと被りますが、僕が言いたいことはやはり2つです。

1つ目は感謝を忘れないで欲しいということです。この部活は本当に大勢の方々に支えられて成り立っています。そのことを忘れないで欲しいです。ただ、感謝というのはなかなか伝わりにくいものだと思うので、行動に起こして下さい。例えば、芝生の整備をして下さっているOBの方がいらっしゃったら「ありがとうございます」の一言は必ず言ってほしいですし、何か手伝えることがあれば手伝ってください。関係者の方がいらっしゃったら必ず挨拶をして下さい。寄付して頂いたものがあれば大切に使うてください。言い出したらキリがないですが、今のご時世で

は何か不祥事を起こせば簡単に廃部にもなりかねません。そうならないためにも、神戸大学ラグビー部の一員という自覚を持って、感謝の気持ちを忘れずに責任のある行動をして下さい。

2つ目は楽しいチームを作ってくださいということです。ただ、「楽しい」チームと「楽な」チームは似て非なるものです。ラグビーはスポーツですので、私は勝った方が楽しいと思います。しかし、楽をしていては勝てません。シーズンが始まれば本当にしんどいことも多くあると思いますが、楽な方ではなく厳しい道を選んで、最後には楽しかったとシーズンを終えられるようなチームを作ってほしいです。みんなならきっと今シーズンよりも上に行けます。

私もついに支援していただく側から支援する側になります。OBとしてみんなの活躍を期待しています。



### 令和7年度(2025年度)首脳陣

- ・主将 : 陶山 翔翼 (経営・新4年)
- ・副将 : 島田 颯太 (経済・新4年)
- : 初谷 優成 (理・新4年)
- ・BKリーダー: 福永 翔翼 (工・新4年)
- ・FWリーダー: 松尾 温斗 (海洋政策・新4年)
- ・主務 : 甲田 結平 (海洋政策: 新3年)
- ・副務 : 宮川 広樹 (経営: 新3年)

## 今シーズンを振り返って

OB 会会長 田中計久 (S53 年卒)

OB 各位におかれては、平素より現役チーム及びOB会の活動に対し熱心なご支援をいただき心より御礼申し上げます。

2023年に創部100周年事業を完了し、2024年は現役チーム強化支援元年と位置付けました。創部100周年記念でいただいたOB寄付金にてロッカールームやクラブルーム等の練習インフラ拡充を行いました。クラブルームでは、今シーズン春から月に1度OB強化サポートスタッフと現役幹部による運営会議を開催し、試合の振り返り、課題の確認や施設に関する要望ヒアリングとその進捗確認を行いました。現役達は拡充したインフラや施設を活用し練習後にマネージャーが作るおにぎり等で体重を増やし、また新たに購入した筋トレ機器でパワーアップを行いました。そうした取り組みにより現役諸君は競合チーム選手に引けを取らない逞しい体つきになりました。その辺りの取り組みは、磯江GM(S53)による報告をごらんください。試合の記録、分析をOBの小松さん(S54)、中本さん(S57)がサポートしてくれました。また板垣OB会事務局長(S55)はインフラ整備にかかわる大学との折衝を一手に担ってくれました。こうしたことが実現できたのはもちろんOB各位からの寄付、財政支援があつてのことで改めて厚く御礼申し上げます。

今シーズンの戦績についても南主将や磯江GM(S53)からの報告を読んでいただければ幸いです。私個人の感想としては、南主将を中心に4回生がチームワーク良くまとまってリーダーシップを発揮したことが大きかったと思います。昨年、一昨年と新入部員勧誘に相当力を入れ毎年10名以上の新入部員を獲得しました。とはいえ、春シーズンから夏に向かう頃の練習試合では上級生と下級生の力の差が大きく、厚みを増した選手層がチーム力強化に繋がってこない状況が続きました。こうした状況を乗り越えることができたのは、個々の選手のパワーアップと菅平での夏合宿前後からの充実した練習でした。まず勝てないかと思っていた合宿中での東大戦に圧勝し自信と弾みがついたようです。夏合宿後も、リーグ戦初戦の甲南大戦をターゲットに京大との合同練習を行いスクラムで圧倒できました。

9月22日はリーグ戦初戦。相手の甲南大にはここ2~3年勝てていなかったのですが、最後まで拮抗した試合(しかも途中雷雨で1時間中断しました)を勝ち切りました。こうして書いていると毎試合の熱戦が臉に浮かんできます。リーグ戦最終戦は、京大とのリーグ戦5、6位決定戦でした。前半の劣勢を後半で追い上げ、もう少しで逆転というところに迫りました。前半に肩の脱臼治療の間、ボックスの要である伊藤陸君を欠いて戦ったことが痛手でしたが、手に汗握る見ごたえのある試合でした。三商大戦では久しぶりの単独優勝で今シーズンを象徴するような有終の美を飾りました。

今シーズンでは観戦に駆けつけた多数のOBから応援をいただきました。お仕事の傍らボランティアで週末の練習や試合にて熱心なご指導をいただいた神戸製鋼ラグビー部OBの大石コーチ、懸案であったスクラム強化指導をいただいた山内コーチ、校務多忙な中、こまめにグラウンドに足を運んでくれた森岡監督(H1)他関係者のご尽力に心より感謝申し上げます。

## 2024年度の振り返り

## 神戸大学ラグビー部 GM 磯江憲夫 (S53年卒)

「OVERWHELM」(圧倒する)。: '24年度新チーム主将南君表明の'24年度チーム・スローガンである。相手チームをOVERWHELMするのは勿論、'23年度は部員達の頑張りにも関わらず、不本意にもBリーグ12校中10位で終えたその結果をOVERWHELMする意があった。加えてBリーグ優勝、獲得部員25名と高い設定目標を掲げ、部員各位にストレッチを促し、結果、B2リーグ3位(Bリーグ全体6位)、新入部員16名獲得と、前年を大きく上回る結果を残す事が出来た。因みに練習試合・公式戦含めた全試合勝率は、29.4%('23) ➡ 57.1%('24)と対前年比約2倍に、リーグ戦に限ると、12.5% ➡ 42.9%と勝率は約3倍に向上、三商大戦は2敗最下位3位('23)から、2勝単独優勝('24)を実現した。(14年ぶり)

神戸大学ラグビー部の創部以来の伝統は、学生の自重自治の元、学生が部活動を推進する所にあるが、'24年度はOBとコーチによる現役支援の今までの過去の蓄積が実を結んだ年ではなからうか。期初の高い目標の実現に向け、現役は**1. 部員数増数**、**2. FWの体重増強とスクラム強化**、**3. フィットネス(パワーと持久力)向上と怪我・故障の最小化**、**4. 全部員ラグビー知の底上げ**、**5. 良質な練習環境の提供**、**6. 現役/OBの緊密なコミュニケーション**、の明確な戦力強化の方向性を掲げ実行した。

**1. 部員数増数**ではインスタ、X、FB等最新のSNSを駆使した勧誘に加え、高校生勧誘隊を結成し、大学入学生と高校生も網羅したリクルート活動により、全国大会経験高校、国立高専卒業生をゲット、新入生のみならず在校生、他運動部からの入部生も獲得した。**2. FW体重増強とスクラム強化**では林リーダーの元に4000Kカロリー摂取を敢行し、600kg台だったFW8人合計体重の700kg台越えを実現。山内コーチによる的確なスクラムワーク指導が実を結び、Bリーグで通用するスクラムを組める様になった。**3. フィットネス向上**ではトレーニング機器充実に加え、渡辺整骨院トレーナーの筋力トレーニング指導、黒田先生(神戸大学医学部教授)の怪我予防指導、時間管理されたサーキットトレーニングの実施、**4.**ではLINEで試合録画を部員で共有し動画を活用した学生間反省会を実施、中本強化委員(S57年卒)による毎試合のゲーム記録、小松強化委員(S54年卒)の試合動画の綿密な解析による数値化したゲーム分析結果をシェアし、全部員のラグビー知向上に貢献した。そしてこれら1~4で出た成果をデータでバックアップ、ラグビーを科学し、大石、山内両コーチのセットプレーにもアンストラクチャーにも巧みに活用する効果的なBKとFWの最新指導につなげ、部員各位への的確な落とし込み、浸透、実行と、'24年度のチーム力を進化させた。また、プレーヤーの速度、体重、インパクトを現役部員に具体的かつ物理的にイメージさせる為、 $Ft = MV$ 「力積ラグビー」を導入し、練習成果の徹底を図った。**5.**ではOB支援によるトレーニングルーム、クラブルーム、芝グラウンドの整備、スクラムマシン他備品購入を実現。**6.**では何よりも、昨年から続く現役・OB面着運営会議の実施により、OB現役の対話が密になり、現役要望に応えるタイミング良いキメ細かな資金面も含むOB支援が可能になった。板垣事務局長(S55年卒)の貢献が大きい。

'24年度部員の進路も決まり、神戸大学ラグビー部ブランド力(総合力)を更に高める事が出来たが、これも'24年度チームの活動を一重に支えて頂いた、OB諸氏、コーチのご支援の賜

物である。そして、南主将のキャプテンシーと四回生のリーダーシップと部員全員のチームワークによる現役の活動が'24年度の根底にあった事は言うまでもない。最後に紙面をお借りし、関係各位のご支援に厚く御礼を申し上げますと共に、来季も同様に何卒宜しくお願ひ申し上げます。

**OB 会現役強化支援チームの活動内容 小松規秀(S54年卒)**

現役強化支援チームは、磯江 GM と OB 会事務局を中心に主に2つの事業に取り組んでいる。

①現役からの支援要請に対して必要なものを厳選して予算化、大学への購入依頼、進捗確認をする、②リーグ戦や練習試合での試合の流れのレポート、およびスタッツの集計・整理、データを基にゲームの分析を行い、現役・OB 運営会議などで現役や指導陣と対話して、ゲームの振り返りとしてフィードバックする。

現役が収録した動画から手作業でスタッツを集計している。対象スタッツは、ボール支配率、地域支配率、攻撃回数/ゲイン (RUN、KICK)、ブレイクダウン (回数、成功率)、ターンオーバー数、スクラム/ラインアウト (回数、成功率)、ハンドリングエラー数、オフサイド数などです。課題は、手作業で行うために作成に時間がかかり、ゲーム後すぐにフィードバックできないことです。

一昨年度からは、リーグ戦での戦績とスタッツを中心に「前年度の振り返り」として纏めて、新チーム発足時に現役幹部と強化ポイントや方策を話し合うミーティングにて説明して、現役のチーム作りや練習内容に役立てています。

**スタッツ分析 概要**

◆対象ゲーム

1次リーグ5試合(甲南大、大産大、竜谷大、追手門大、花園大)

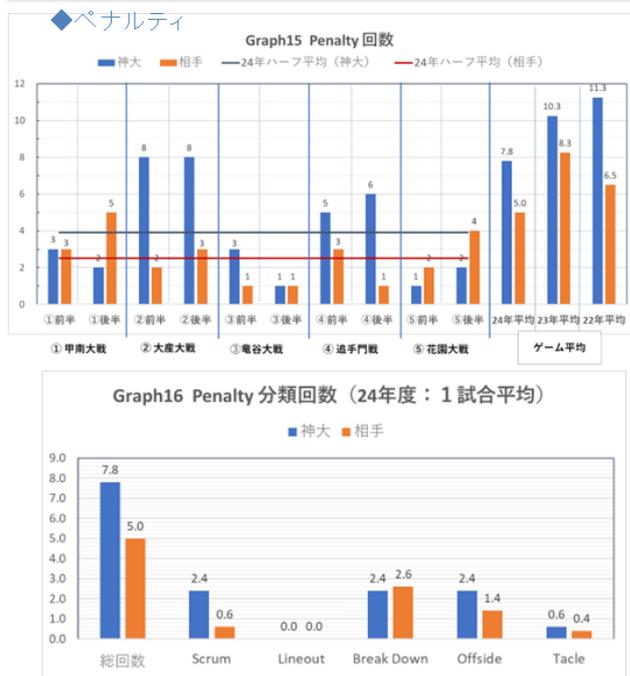
スタッツ項目	対戦校比較	前年度比較	特記事項
トライ数	-	+	23年度に比べて、得トライ増、失トライ同等
ボール支配率・地域支配率	○	+	ボール、地域支配率共、対戦校平均と同等 昨年までは対戦校平均に劣っていたが、スコアアップ
ブレイクダウン(BD 回数・成功率)	-	○	平均成功率92%(合格ライン90%)。相手成功率は99%
ターンオーバー(TO 回数 Gain)	-	-	22,23年度より減少。BDでのTOほとんどなし
RUN攻撃回数 Gain)	-	○	総Gainは対戦校平均の2/3程度 23年度に比べてカウンタアタックのGain増
キック攻撃(回数 Gain)	○	前年なし	総Gainは対戦校平均と同等
連続攻撃(3Phase以上)	-	-	対戦校と回数同等、平均Gainは少ない
スクラム成功率	-	-	MyBall成功率76%。甲南大、花園大とは互角以上 FWが強い3校との差は大きい
ラインアウト成功率	-	○	MyBall成功率低い(75%)。23年度と同等
ハンドリングエラー	○	+	平均5.4回。21年度より毎年改善
ペナルティ	-	+	平均7.8回。22,23年度より改善(特にブレイクダウン)

(注)1.○:同等、+:優位、-:劣位、「+」「-」の数は程度を表わす

2.対戦校比較は5試合平均での比較、前年度比較は神大23年度スコアとの比較



反則(ペナルティ)



- 試合平均回数
  - 神大7.8回、相手5.0回
  - 前半: 神大4.0回、相手2.2回
  - 後半: 神大3.8回、相手2.8回
  - ・甲南、竜大、花園戦は平均以下
  - 産大戦(16回)、追大戦(11回)は多い
  - 2校ともFWの圧力が強いチーム
  - ・22,23年度に比べて減少
  - 11.3回(22年)→10.3回(23年)→7.8回
  - 規律の意識、フィジカル向上の効果
- 分類
  - ブレイクダウン(BD)2.4回、スクラム2.4回、オフサイド2.4回
  - 相手校に比べてスクラムの反則が多い(特に産大、追大戦)
  - ・23年度に比べてはBDの反則が減少(23年度: BD5.3回、スクラム1.8回、オフサイド2.8回)

戦績、スタッツ視点での評価

- ・Bリーグのチーム力は、大体大と竜谷大が抜けており、今年度Cリーグ降格の2校(大工大、花園大)が少し劣る。神大を含む、他の8校にはそれほどの差はない。
- ・神戸大の得点は過去6年間で一番多い。失点は22,23年度より多いが、得失点差は過去6年間で一番小さい。それでも、まだ得点、失点共にBリーグ平均に届いていない。
- ・1次リーグで勝利の2試合(甲南大、花園大)は、ボール支配率、エリア支配率、Run攻撃ゲインなどで相手と同等以上。またスクラム(成功率、ペナルティ)も相手と対等以上。
- ・敗北の3試合(大産大、竜谷大、追手門大)は、ボール支配率、Run攻撃ゲイン、ターンオーバー数などで相手より劣る。特に、FWのRun攻撃ゲイン、スクラムの成功率、ペナルティ数で相手より大きく劣る。スクラムは、フィジカルの強いチームに苦戦したが、第一列の部員が増え、確実に強くなっている。
- ・この数年は、後半になるとパフォーマンスが低下していた。24年度は後半でもトライ数やパフォーマンス(ボール支配率、ブレイクダウン成功率、Run攻撃ゲインなど)が低下しなかった。
- ・良くなったところ
  - ボール支配率、地域支配率が相手と同等。過去数年間で一番よい。
  - ハンドリングエラーが過去4年で最少、ペナルティが過去3年で最少。
- ・強化するところ
  - スクラム(大産大、追手門大と対等に組める)、ラインアウト(成功率アップ)
  - ブレイクダウン(成功率アップ、ターンオーバーを増やす)

**製氷機 寄贈：2024年卒業OB・OG**



12月、製氷機が設置され、配管工事を含む全ての作業が無事完了しました。製氷機の購入に際しては、2024年卒業のOB・OGの皆さんが、購入費用の殆どを負担しました。

また、取り付け工事に関しては、深江地区の飲食店である「深江カレー」様が無償でご協力くださり、製氷機を導入することができました。(ホームページ／お知らせ 2024年12月7日より)

**OB会費納入のお願い**

OB会費については皆様のご理解を頂き、年々納入額が増えております。2024年度の振込がまだの方は下記振り込み先にて手続きをお願い致します。なお、口座振替の方はすでに昨年6月28日に自動引落しされています。

振込で年会費を払っておられるOB・OGの方々には、できるだけ口座振替にして頂けることをお願いします。口座振替での納入方法を用意していますので、ご希望の方は事務局までご連絡をお願いします。口座振替用紙を送付させていただきます。今後ともOB会の財務基盤強化に向けて何卒ご協力、ご支援をどうぞよろしくお願いいたします。

**【年会費】**

卒業後10年未満(H27卒～R6卒) 6,000円(マネージャーは3,000円)、卒業後10年以上(～H26卒) 12,000円(マネージャーは6,000円)、賛助会員5,000円。70才以上の卒業年度の方で特段の申し出のなかった皆様からは、ご寄付いただいたものとして引落しさせていただきますのでご了承ください。

**【振込先：凌霜ラガークラブ】**

- 三井住友銀行 天満橋支店 普通口座 0957978
- 三菱UFJ銀行 大阪駅前支店 普通口座 0027557
- ゆうちょ銀行 口座 00960-4-302152

## 令和7年度(2025年度)OB総会と春季試合予定

1月31日時点での情報です。最新情報はホームページでご確認ください。

- ・理事会及び現役4回生慰労会 3月9日(日) 神戸大学大阪クラブ(旧大阪凌霜倶楽部)
- ・OB総会:4月27日(日) 深江キャンパス
- ・OB戦、東京支部総会:未定
- ・三商大戦:未定
- ・定期戦(東京海洋大学、甲南大学、関西学院大):未定
- ・近国体:未定

## 神戸大学ラグビー部ホームページ

(URL) <https://www.koberfc-official.com>

ホームページ中のOB会員ページを閲覧するためにはパスワードが必要です。

ホームページのパスワード: ryosorugger2024

現役情報は、Instagram、Facebookでもご覧いただけます。

## 名簿内容変更の連絡について

- ・会員の住所、電話番号、メールアドレスなどの変更は事務局で随時受け付けています。変更があった場合は速やかにOB会事務局までご連絡願います。

## 神戸大学ラグビー部OB会事務局

- ・メール [itagaki@mikunikinzoku.jp](mailto:itagaki@mikunikinzoku.jp) または [kobe.u.rfc.ob@gmail.com](mailto:kobe.u.rfc.ob@gmail.com)
- ・電話 080-9543-0441 (板垣OB会事務局長の携帯電話)
- ・郵便 〒662-0051 西宮市羽衣町7-32-509 (板垣毅)
- ・FAXはありません。

会報担当: 遠藤 勉 (S60年卒)